

# 日本原子力学会核燃料部会 平成20年度第一回運営委員会議事録

日時：平成20年5月12日(月)13:30～15:30

場所：原子力学会事務局 会議室

出席者：(順不同 敬称略)

岩田部会長、安部田副部会長、阿部委員、伊東委員、緒方委員、大平委員、木下委員、杉崎委員、原田委員、平井委員、更田委員、三島委員、若松委員、荒川氏(高島委員代理)、磯部氏(三菱マテリアル)、高野氏(三菱重工)、永瀬氏(JAEA)

## 議事

### 1. 前回運営委員会および総会の議事録案確認

阿部委員から、資料No.1-1、1-2に基づき、前回運営委員会および総会の議事録案が提示され、了承された。

### 2. 平成20年度運営委員について

阿部委員から、資料No.2に基づき、運営委員2名の変更について紹介があり、了承された。交代となる三菱マテリアル磯部氏は、秋の大会での核燃料-水化学部会合同企画セッション取りまとめのため、当面オブザーバーとして参加することが紹介された。確認用として配布された核燃料部会運営委員名簿について、記載項目について確認頂くこととした。確定後、各委員にメール配布する。

### 3. 平成19年度決算報告

・阿部委員から、資料No.3-1に基づき、平成20年3月実績を反映した平成19年度決算及び平成20年度予算について説明があった。部会報冬版の印刷、発送費及びホームページ管理費の一部について平成20年度支払いとなること、支払いは未払いによって増える繰越金で賄われるため、平成20年度末の繰越金は今回の未払いの有無によらず同じであることが紹介された。また、平成20年度より核燃料部会に設置される「燃料高度化ロードマップ(仮称)」実行委員会運営費については、平成20年度予算に未計上であるが、学会事務局より、運営費が確定した段階で期中に予算承認願(予算外申請)を出すよう指示を受けたことが紹介された。  
・関電荒川氏(高島委員代理)から、資料No.3-2に基づき、部会報冬版発行費用の平成20年度費用への繰り延べについて説明、お詫びがあった。

### 4. 平成20年度「秋の大会」部会企画セッション(水化学部会との合同企画セッション)

#### 企画立案状況報告

・三菱マテリアル磯部氏から、資料4に基づき2008年秋の大会(9/4-6)企画セッション提案書の提出について報告があり、セッションの具体的な内容について説明があった。  
・これから負荷を背負っていくもの、イクスプロアールするところを表すロードマップ(Load Map)がある。みんなが一丸となってやらなくてはいけないところが出てくれば良いとの意見が出された。

### 5. 次回部会報(No.44-1)の企画立案状況報告

若松委員から、資料No.5-1に基づき、次期部会報の立案状況が紹介され、内容、執筆者等について協議した。執筆者については、後日、若松委員から推薦の期限等についてメール発信し、それを受けて、書いてくれそうな人がいたら推薦することとなった。  
・関係機関便りについて、J-MOXが事業許可を控えており候補の1つである。その他、耐震関連で電力、統合後の変化についてJAEAで書けないかとの発言があった。  
・国際交流ニュースについて、単なる会議報告でなく、アジア、世界の中での国際戦略論みたいなもので書けないかとの発言があった。これに関連して、  
-谷口氏-鈴木先生-諸葛先生当たりのラインに打診してはどうか  
-木下委員より、石野先生に、ここ20年のアジア圏における基礎研究のトレンド(Nuclear Materialへの投稿傾向等)、国立研究所動向等について打診してみる  
-グローバルCOEプログラムで清華大学とのシンポジウムが来週開催される。高温ガス炉関係も含め阿部先生等にも書いてもらってはどうか  
-インド、中国は目を見張る動きがある、VISTA(ベトナム、インドネシア、南ア、トルコ、アルゼンチン)の原子力の動きも活発等の意見があった。  
また、日中、日韓の活動を今後どうするのか。ポジティブな意味でディスカッションペーパー(議論のたたき台)を作成し、議論してはどうかとの意見があった。  
・特別寄稿について、学会賞受賞者にもお願いすることも考えられる、また、岩田部会長から原子力技術で残すべきもの(技術のアーカイブ)に関して御自身が書くこともできるとの発言があった。

## 6. 平成20年度夏期セミナー企画立案状況報告

更田委員から資料No.6に基づき、夏期セミナーの開催要領、プログラム等の説明があり、審議した。

- ・既に部会HPへの掲載等により公に参加呼び掛け中である。6月20日参加申込締め切り、講演資料の締め切りは6月16日であるが、特に、講演資料の締め切りは守って欲しい。
- ・学生会員は、運用上、学生と読み替え、阪大、京大等の近隣大学に参加を呼び掛ける。
- ・第二回運営委員会を夏期セミナー初日(7月17日)の昼食時に行う。
- ・学生の参加を増やすことが重要、セミナーが若者向きでなくなっている等の意見が出され、来年度セミナー担当(GNF、東京大学)が次回運営委員会までに対応の方向性を考え、次回運営委員会より議論を開始することとなった。学生の参加を増やすことに関連して、
  - 宿泊費、交通費が高い。学生に照準をあわせた開催場所の検討、費用補助等が必要
  - 材料、核燃料、水化学の分割は、将来何をやるか決まっていない学生の目から見ると細分化され過ぎている。三部会(材料、核燃料、水化学)合同くらいが良い
  - 大学教育のコンテンツを含め問題がでてきている。核燃料を学んだ(興味がある)学生だけを対象にしては現場のニーズを充足する数に至らない 等の意見が出された。
- ・三部会合同開催については、核融合を入れてはとの意見も出されたが、総花的になることから、来年は軽水炉に焦点を定め、核融合は入れないこととなった。また、開催時期をラップさせるという方法も考えられるとの意見が出された。安部田副部長より、5月13日開催の部会等運営委員会にて頭出しをしたいとの発言があった。

## 7. 「燃料高度化ロードマップ(仮称)」実行委員会運営要綱について

安部田副部長から、資料No.7-1、7-2に基づいて、今年度より核燃料部会の下に設置される「燃料高度化ロードマップ(仮称)」実行委員会の運営要綱案、委員の業務分担の割り振り方、及び、今後の予定について説明があり、審議した。

- ・委員の業務分担の割り振り方について、産官の人数割を事前に指定することは学会活動から相応しくないとの意見が出された。これについては、説明者より、特定の機関に片寄らずバランスにより選定したい旨説明があった。
- ・ロードマップと技術戦略マップという言葉が混ざっているが、戦略論は往々にしてクローズな議論の結果生まれるものである。戦略という言葉の使い方に注意が必要との意見が出された。これについては、説明者より、特別専門委員会の成果物を「燃料高度化技術戦略マップ2007」と名を付けて残してあるが、本実行委員会のタイトルは「燃料高度化ロードマップ(仮称)」実行委員会である(戦略は使われていない)との説明がなされた。
- ・国の委員会、ワーキンググループの頻度を考えると、要綱案に記載の頻度で良いのかという意見が出された。これについて、説明者より、要綱案には特別専門委員会ベースの頻度が記載されており、特別専門委員会では必要に応じて拡大幹事会のようなもので対応してきたこと、要綱への書き振りはアウトプットをどこに向かって出すか等、委員の意見を聞いて適宜調整する旨説明があった。

## 8. その他(今後の予定等)

- ・次回運営委員会は、夏期セミナー初日(7/17)昼食時に開催することとなった(於:香川県琴平町)。
- ・岩田部長から、今までの良いところは踏襲しつつも、時代にあわせ、あるいは時代を先取りして、変えるべきは変えていこうとの提起がなされた。

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

### [過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)